

## 高輪築堤の幅広い公開と全面保存を求める声明

東日本旅客鉄道会社(以下 JR 東日本)の「品川開発プロジェクト」にともなう発掘調査によって明らかになった高輪築堤の全面保存については、既に日本歴史学協会による合同要望書、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会による要望書、さらには日本考古学協会会長声明が提出されています。それらでは近代国家形成期の産業遺産として高く評価しているほか、2月に現地視察を終えた萩生田光一文部科学大臣も「明治期の近代化を体感できる素晴らしい文化遺産」との所感を表明し、開発と保存との両立を政府閣僚の立場で求めています。

しかるに、その後の本年4月10日に、発掘調査が進む4街区における日本初の鉄道信号機跡なども含む新たな成果が公表されたものの、報道によると第7橋梁を中心とした一部の遺構のみを現地保存し、それ以外は「記録保存」に止めるとする見解が、JR 東日本社長によって示されました。また、2度にわたり実施された現地見学会は事前申し込みであったために、きわめて限られた市民にしか公開されていません。インターネット上での動画配信も期間限定です。

私ども考古学研究会は、歴史学・考古学をはじめとする関係学会によって付託された高輪築堤の歴史的評価を軽視し、自らの歴史、ひいては日本鉄道史を否定する JR 東日本の認識や態度に強い違和感と危機感を憶えています。一企業の判断によって、日本の近代化を象徴する文化遺産の大半が現状保存されず破壊されようとしている事態を看過することはできません。現地には現在、東海道線や東海道新幹線がはしり、すぐ目の前にはリニア品川駅が建築予定です。高輪築堤は鉄道の過去と今、そして未来を語りうる場所に、150年にわたり残されてきた貴重な文化遺産なのです。

考古学研究会常任委員会は、これまでの発掘調査成果とともに4街区の調査成果を可能な限り広く公開し、高輪築堤の全面保存と活用に向けた広範な議論を求めます。

2021年4月18日

考古学研究会常任委員会